

高等学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

地理歴史

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
	1 具体的方策	3
	2 検証方法	3
	3 研究構想図	4
V	研究の内容	5
	〈検証授業(1)世界史A〉	5
	〈検証授業(2)日本史B〉	7
	〈検証授業(3)地理B〉	11
	〈検証授業(4)江戸から東京へ〉	13
VI	研究の成果	16
VII	今後の課題	16

研究主題	社会的事象について史資料を活用して多面的・多角的に考察し、根拠をもって表現する力を育むための授業改善と学習評価の充実
------	------------------------------------------------------------

I 研究主題設定の理由

今年度の教育研究員高校部会テーマは「学校の教育活動全体を通して育成すべき『資質・能力』を育むための授業改善と学習評価の充実」である。本研究では人工知能の発達や生産人口の減少など、急激な社会に対応していくために、学校の教育活動全体を通して、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成するための授業改善と学習評価の充実が重要であると捉えた。

このことについて、「幼稚園・小学校・中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28 年 12 月 21 日）（以下、「答申」という。）及び高等学校学習指導要領地理歴史（平成 30 年 3 月）、高等学校学習指導要領解説地理歴史編（平成 30 年 7 月）、教育研究員地理歴史部会の先行研究を踏まえ、研究主題を設定した。

本研究では、これからの時代に求められる地理歴史科における資質・能力について、高等学校学習指導要領地理歴史（平成 30 年 3 月）が示す目標を基にして、次のとおりまとめた。

- 1 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能
- 2 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力
- 3 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度
- 4 空間軸や時間軸から多面的・多角的な考察や深い理解を通して、自国や他国の文化を尊重することの大切さの自覚

また、答申に示された高等学校学習指導要領地理歴史（平成 21 年 3 月）の課題である「社会的な見方や考え方については、その全体像が不明確であり、それを養うための具体策が定着するには至っていないこと」や教育研究員の授業実践から現状を次のように捉えることとした。

- 1 複数の史資料から、目的に応じ情報を組み合わせて読み取る力が十分ではない。
- 2 課題に対して既習事項を基に考察し、根拠に基づいて自らの考えを表現したりする力が十分ではない。
- 3 よりよい社会の実現を視野に、課題の解決に向けて主体的に学びに向かう力が十分ではない。

これらの現状を踏まえて、次のとおり課題をまとめた。

- 1 提示された複数の史資料を読み取る学習活動を取り入れる必要がある。
- 2 新たな学習内容と既習事項を結び付け、根拠に基づいて自らの考えをまとめ、表現する学習活動を取り入れる必要がある。
- 3 生徒の主体的に学びに向かう意欲や姿勢を引き出すための学習評価を取り入れる必要がある。

以上のことから、本部会の主題を「社会的事象について史資料を活用して多面的・多角的に考察し、根拠をもって表現する力を育むための授業改善と学習評価の充実」と設定した。

Ⅱ 研究の視点

1 複数の史資料を読み取り、読み取った内容を整理し、まとめること

高等学校学習指導要領地理歴史（平成30年3月）では「社会的な見方・考え方」は「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察」する際の視点や方法であると示されており、多面的・多角的に社会的事象を考察させるため複数の史資料から目的に応じて的確に情報を読み取り、整理し、まとめる手法を導入することとした。

2 新たな学習内容と既習事項を結び付け、社会的事象の特徴を表現すること

高等学校学習指導要領地理歴史（平成30年3月）において、単元や内容のまとまりを重視した学習の展開が求められており、その時間の学習内容を既習知識の活用を踏まえて深めることが重要である。また、社会的事象の解釈を表現する学習活動が求められており、史資料から読み取り解釈した情報を根拠に基づいて表現することは重要である。

以上のことから、因果関係や共通性、差異性を根拠に基づいて表現する手法を導入することとした。

3 提示された課題に対する考え方や主体的な学びに向かう意欲を見取る学習評価を導入すること

高等学校学習指導要領地理歴史（平成30年3月）では、求められる「資質・能力」として「地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度」を示している。この点は平成30年度教育研究員地理歴史部会報告書においても取り入れられており、生徒に事前提示されている昨年度のルーブリック評価を参考にし、新たな視点として、話し合い活動における生徒の主体性や協働性を見取る評価を導入することとした。

Ⅲ 研究の仮説

本研究では「Ⅱ 研究の視点」を踏まえて、次のとおり仮説を立てた。

仮説1 複数の史資料を読み取り、読み取った内容を整理し、まとめる学習活動を取り入れれば、生徒は多面的・多角的に史資料を読み取る力を身に付けることができる。

仮説2 新たな学習内容と既習事項を結び付け、社会的事象の特徴を表現する学習活動を取り入れれば、生徒は根拠に基づいて自らの考えをまとめ、表現する力を身に付けることができる。

仮説3 提示された課題に対する考え方を見取る学習評価を導入し、生徒が全体の見通しを立てることができれば、学びに向かう意欲を高め、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を身に付けることができる。

IV 研究の方法

本研究の仮説を検証するために、次のとおり学習活動を設定し、授業改善と学習評価の充実を図り、成果と課題をまとめる。

1 具体的方策

- (1) 複数の史資料から読み取れることを整理し、まとめるワークシートを作成し、授業において活用する。
- (2) 課題に対して、新たな学習内容と既習事項を活用し、因果関係や共通性、差異性を表現したり、根拠に基づいて論述したりするワークシートを作成し、授業において活用する。
- (3) 提示された課題に対する考え方についてのルーブリックを事前に提示し、単元全体を見通すことができるワークシートを作成し、授業において活用する。

2 検証方法

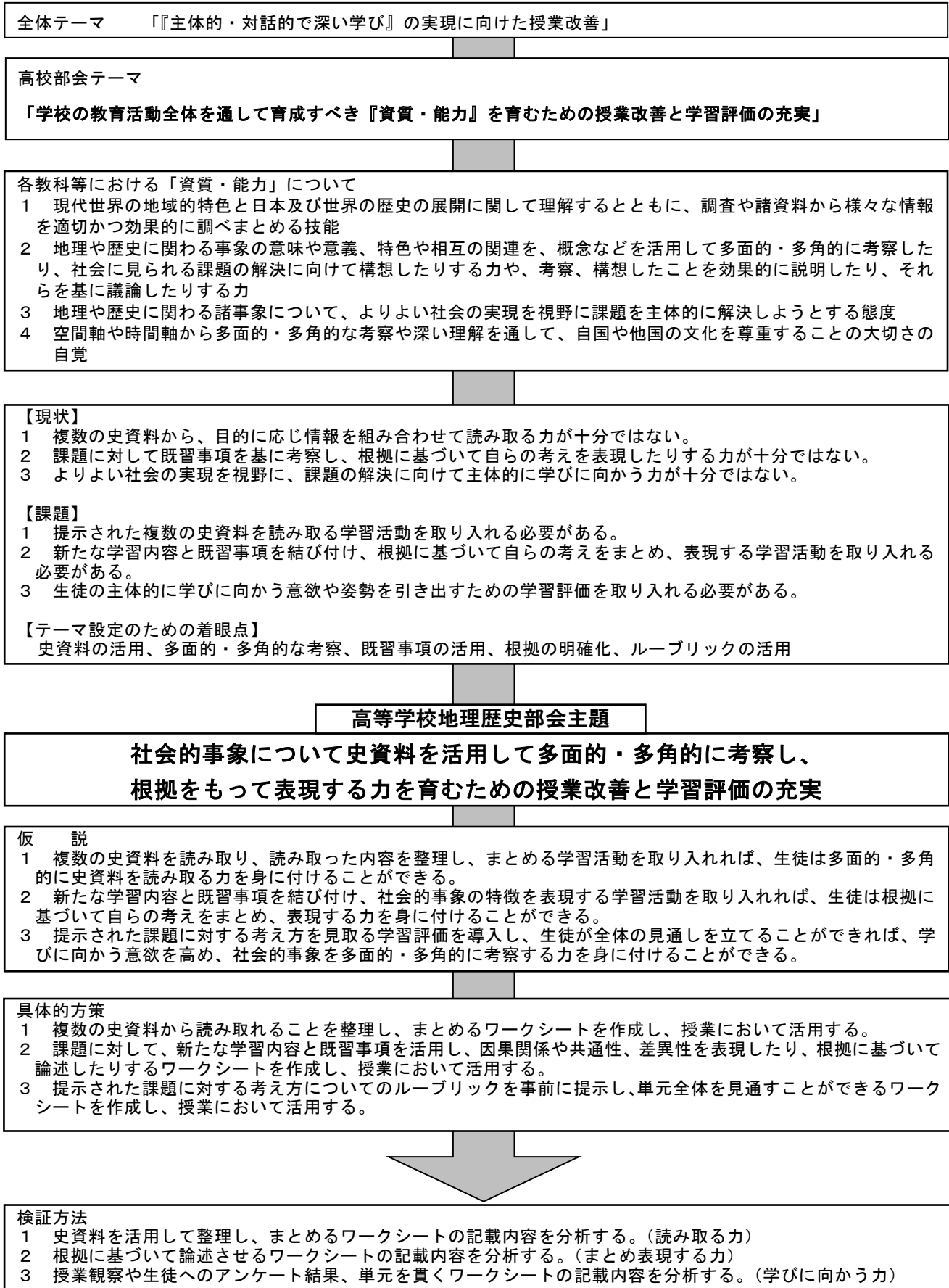
仮説を検証するため、具体的方策を踏まえ、検証授業の前後で生徒がどのように変容したかを比較し、分析を行う。

- (1) 史資料を活用して整理し、まとめるワークシートの記載内容を分析する。(読み取る力)
- (2) 根拠に基づいて論述させるワークシートの記載内容を分析する。(まとめ表現する力)
- (3) 授業観察や生徒へのアンケート結果、単元を貫くワークシートの記載内容を分析する。(学びに向かう力)

表1 本研究におけるルーブリック

	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)	D (改善を要する)
ルーブリック1 多面的・多角的に 史資料を読み取る力 (知識・技能)	史資料の全てを挙げて、 背景や影響などについて正 確に記述ができている。	史資料の全てを挙 げて記述ができている。	史資料の一部を踏 まえて記述ができ ている。	史資料を活用し た記述ができ ない。
ルーブリック2 因果関係や共通 性、差異性を根拠に 基づいて表現する力 (思考・判断・表現)	問いに対して、自分の意 見を根拠に基づき、因果関 係や共通性、差異性に注目 しながら論述することがで きている。	問いに対して、自 分の意見を、根拠に 基づいて論述するこ とができている。	問いに対して、自 分の意見を論述する ことができている。	問いに対して、 ほとんど論述する ことができ ない。
ルーブリック3 学びに向かう力 (主体的に学習に取 り組む態度)	他者の意見を参考にし て、自分の意見を根拠に基 づいて主張したり記述した りしようとしている。	自分の意見を根拠 に基づいて主張した り記述したりしよ うとしている。	自分の意見を主張 したり記述したりし ようとしている。	自分の意見を主 張したり記述した りしようとして ない。

3 研究構想図



V 研究の内容

検証授業(1) 世界史 A

教科名	地理歴史	科目名	世界史 A	学年	第 2 学年
-----	------	-----	-------	----	--------

(1) 単元の目標

- ア 生徒が史資料を活用し、ルネサンス、宗教改革、大航海時代の背景を理解し、ヨーロッパの社会や生活にどのような変容をもたらしたか理解することができる。
- イ 生徒がルネサンス、宗教改革、大航海時代のそれぞれの関連性や出来事の因果関係について考察し、文章にまとめることができる。
- ウ 生徒がルネサンス期の作品等について調べ、宗教改革の背景、大航海時代の社会の変容について史資料を活用し、グループ学習を通して意欲的に学習に取り組むことができる。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 ルネサンス期から大航海時代の社会
- イ 使用教材 「明解世界史 A」（帝国書院） 「ダイアログ世界史図表」（第一学習社）

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
史資料を活用し、大航海時代の要因と新航路の発見によりヨーロッパと新大陸の社会や生活に大きな変化をもたらしたことを理解している。	大航海時代の要因及び南アメリカ大陸の銀の流入がヨーロッパに与えた影響や植民地化による現地の人々や社会に与えた影響について考察し文章にまとめている。	新大陸やアジアへの航路が開拓された背景や人物、進出先の社会やヨーロッパの生活や社会に及ぼした影響について関心をもち意欲的に学習に取り組もうとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（5 時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
		【単元を貫く大きな問い】 中世におけるヨーロッパの社会生活はなぜ変容したのか。			
第 1 時	・史資料を基にルネサンスの意義や作品を調べる。	●			・ルネサンスの特徴と作品を理解し、その知識を身に付けている。(ワークシート)
第 2 時	・カトリック、プロテスタントが広がった地域や宗教戦争についてその背景を考察する。		●		・ルター派、カルヴァン派による宗教改革の拡大について史資料を活用し、その特徴を捉えている。(ワークシート)

第3時	【本時の問い】 対抗宗教改革がその後の社会にどのような影響を与えたのか。			
	・対抗宗教改革とカトリックの拡大及び宗教和議について、史資料を読み取り背景について考察し文章にまとめる。	●		・対抗宗教改革とカトリックについて、史資料を読み取り、背景について考察し文章にまとめている。(ワークシート)
第4時	【本時の問い】 なぜ大航海時代が始まったのか。			
	・大航海時代が始まった背景とその要因について史資料を通して理解する。	●		・新大陸航路が開拓された要因について史資料を用いて調べることができる。(ワークシート)
第5時 (本時)	【本時の問い】 スペインは南米にどのような影響を与えたのか。			
	・スペインによる植民地開発が社会に及ぼした影響を考察し文章にまとめる。	●		・植民地化による社会の変容を資料から調べ考察している。(発問、活動観察)

(5) 本時 (全5時間中の5時間目)

ア 本時の目標

スペインの南米進出について、史資料を活用して多角的、多面的に考察し、社会に及ぼした影響について、根拠をもって表現する。

イ 仮説に基づく本時のねらい

(ア) 大航海時代時代の南米の変容について、史資料を活用して整理し、まとめるワークシートを導入し、史資料の読み取りができているかを確認する。

(イ) スペインの南米進出の特徴について、根拠に基づいて論述させるワークシートを導入し、自らの考えをまとめ、表現する力を身に付けることができているかを確認する。

(ウ) 単元全体を見通すことができるワークシートやアンケートを導入し、学びに向かう意欲の高まりや多面的・多角的に考察する力を身に付けることができているかを確認する。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入5分	【単元を貫く大きな問い】 中世におけるヨーロッパの社会生活はなぜ変容したのか。		
	・新大陸からもたらされたものについて理解する。	・大航海時代について、地図を活用しポルトガル、スペインの活躍した人物や出来事についての既習知識を確認する。 ・ICT機器の利用で生徒の興味・関心を高める。	・既習事項について理解している。(ワークシート)

展開 35分	【本時の問い】 スペインは南米にどのような影響を与えたのか。		
	<ul style="list-style-type: none"> 個人ワーク（5分）、グループ討議、模造紙へのまとめ（15分） 全グループが2分ずつ発表・質疑応答する。 	<ul style="list-style-type: none"> スペインの進出が植民地にどのような変容をもたらしたか考察させる。 史資料を活用し討議させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項に加え、資料を基にして多面的・多角的に考察し、表現している。（ワークシート、活動観察）
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 大航海時代以降、どのように世界は変容したか考察する。 ワークシートに本時のまとめを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 変容について論点・原因・理由を述べるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に、南米におけるスペインの影響について表現している。（ワークシート）

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1については、表2からA・B評価の生徒が60%を超えていることから、史資料を活用して整理する方が妥当であったことが分かる。繰り返し、複数の史資料を整理し、まとめるワークシートを繰り返し活用することで、史資料の読み方や多面的・多角的に史資料を読み取る能力が高まっていった。

表2 ルーブリック1「多面的・多角的に史資料を読み取る力（知識・技能）」

	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	C（努力を要する）	D（改善を要する）
第1時	17%	31%	38%	14%
本時	33%	33%	20%	12%

イ 仮説2については、表3よりA・B評価の生徒が60%を超えていることから、根拠に基づいて論述させる方が妥当であったことが分かる。既習事項と結び付けて、因果関係や共通性、差異性を表現したり、根拠に基づいて論述したりするワークシートの活用は多面的・多角的に史資料を読み取る力を育成する上で有効といえる。

表3 ルーブリック2「因果関係や共通性、差異性を根拠に基づいて表現する力（思考・判断・表現）」

	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	C（努力を要する）	D（改善を要する）
評価	26%	37%	19%	18%

ウ 仮説3について、A・B評価の生徒は合わせて58%であった。ルーブリックを事前提示しきめ細かな評価を導入したり、単元を貫くワークシートを活用して全体を見通せる学習活動を導入したりすることで、生徒の学びに向かう意欲の向上につながったと考えられる。

表4 ルーブリック3「学びに向かう力（主体的に学習に取り組む態度）」

	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	C（努力を要する）	D（改善を要する）
評価	12%	46%	30%	12%

検証授業(2) 日本史B

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	学年	中高一貫教育校 第5学年
-----	------	-----	------	----	-----------------

(1) 単元の目標

ア 政党政治の発展に関する複数の史資料を読み取り、デモクラシーの思潮が広まっていつ

た背景を多面的・多角的に考察し、説明することができる。

イ 日露戦争頃からの国民各層の政治意識の変化、第一次護憲運動や米騒動、原敬内閣の成立などの内容を踏まえ、既習事項と結び付けて、それらが起きた出来事や背景を根拠に基づいてまとめ、表現することができる。

ウ 政党政治が発展した背景に関して、単元全体の見通しを立て、政党政治の発展に関して多面的・多角的に考察しながら、話し合い活動やワークシート等に意欲的に取り組むことができる。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

ア 単元名 政党政治の発展

イ 使用教材 「詳説日本史B 改訂版」（山川出版社） 「図説日本史通覧」（帝国書院）
「新詳述 日本史史料集」（実教出版）

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
政党政治の発展について、国民各層の政治意識の変化や資本主義の発展とそれによる産業構造の変化に注目しながら理解する。	政党政治が発展した理由について、史資料を用いて多面的・多角的に考察し、文章にまとめている。	史資料の読み取り方や単元全体の見通しを踏まえながら、政党政治が発展した理由についてまとめ、それらを説明しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
	【単元を貫く問い】政党政治はなぜ発展したのか。				
第1時	【本時の問い】大正デモクラシーを支えた思想は何か。 ・大正デモクラシーを支えた思想として、史料から天皇機関説、民本主義の内容について理解する。	●			・天皇機関説や民本主義についての理解を深めている。(ワークシート)
第2時	【本時の問い】大正政変は政党政治の発展にとって、どのような意味をもつか。 ・政府支出の増大を示した資料や軍事費増大の風刺画から大正政変が起きた背景を読み取る。			●	・資料を根拠にしなが、民衆が運動に参加した背景を考えようとしている。(ワークシート)
第3時	【本時の問い】第二次大隈内閣は政党政治の発展にとって、どのような意味をもつか。 ・都市民衆の抗議行動（日比谷焼打ち事件・大正政変・ジーマンス事件）によって、元老が人気のある大隈重信を首相に指名したことを理解する。	●			・資料を根拠にしなが、大規模な民衆運動が、内閣の組閣に影響を与えていることについて考えることができる。(ワークシート)

第4時	【本時の問い】大戦景気が政党政治の発展に与えた影響は何か。			
	・諸資料から日本は好景気・輸出超過となり、工業化が進む一方、人口の都市集中と物価高騰が起きた要因を文章にまとめる。	●		・資料を根拠にしながら、大戦景気がもたらした影響を文章化することができる。(ワークシート)
第5時 (本時)	【本時の問い】米騒動が政党政治の発展に与えた影響は何か。			
	・米騒動が起きた理由について、物価、米の生産量と消費量、メディア、教育の視点から考察し、文章にまとめる。	●		・米騒動が起きた理由と、その影響について文章化することができる。(ワークシート)
第6時	【本時の問い】原敬内閣は政党政治の発展にとって、どのような意味をもつか。			
	・原敬内閣の政策内容に関する資料から、本格的な政党内閣が成立した一方、政策への不満が高まったことを読み取る。	●		・これまでの学習を踏まえて、政党内閣について理解することができる。(ワークシート・レポート)

(5) 本時（全6時間中の5時間目）

ア 本時の目標

- (ア) 諸資料から適切な情報を読み取り、米騒動について多面的・多角的に考察し、米騒動が起きた理由とその影響について根拠をもって表現する。
- (イ) 史資料の読み取り方や単元全体の見通しを踏まえながら、既習事項と結び付けて、米騒動が起きた理由についてまとめ、文章化しようとしている。

イ 仮説に基づく本時のねらい

- (ア) 米騒動や政党内閣について、史資料を活用して整理し、まとめるワークシートを導入し、史資料の読み取りができているかを確認する。
- (イ) 米騒動が起きた理由について、根拠に基づいて論述させるワークシートを導入し、自らの考えをまとめ、表現する力を身に付けることができているかを確認する。
- (ウ) 単元全体を見通すことができるワークシートやアンケートを導入し、学びに向かう意欲の高まりや多面的・多角的に考察する力を身に付けることができているかを確認する。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 5分	【単元を貫く問い】政党政治はなぜ発展したのか。		
	・テーマの確認	・本時のねらいを周知する。	
展開 35分	【本時の問い】米騒動が政党政治の発展に与えた影響は何か。		
	・米騒動がなぜ起きたのかについて資料を通して考える。 ・米価の上昇を示したグラフ、米飯を食べる人が増加したことを示す資料、寄生地主制の進展などの資料を活用し、グループワークを行う。	・資料を読み取らせながら、米の投機的買い付けが行われた背景は何か、という視点を踏まえながら考えさせる。	・既習事項に加え、資料を基にして多面的・多角的に考察し、表現している。(ワークシート、活動観察)

まとめ 10分	・グループでまとめた内容を踏まえて、米騒動はなぜ起きたのか、政党政治の発展に与えた影響は何かについてワークシートに記入する。	・話し合った内容を基に、どの資料を利用したかを踏まえながら、まとめるように指示する。	・資料を基に、米騒動が起きた理由について表現している。(ワークシート)
------------	----------------------------------------------------------------	--------------------------------------------	-------------------------------------

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1について、表5からA・B評価の生徒が70%を超え、史資料を活用して整理する方が妥当であったことが分かる。当初、A・B評価の生徒が50%に満たないことから、生徒が複数の史資料の読み解きに苦勞していたが、活動を深めていくうちに、歴史事象を多面的・多角的に読み取れるようになっていったことが分かる。

表5 ルーブリック1「多面的・多角的に史資料を読み取る力(知識・技能)」

	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(努力を要する)	D(改善を要する)
第2時	18%	27%	38%	17%
本時	40%	32%	24%	4%

イ 仮説2については、表6よりA評価とB評価の生徒が70%を超えていることから、根拠に基づいて論述させる方が妥当であったことが分かる。表7の生徒の記述についても、活動を続けていったところ記述量も増え、歴史事象について、既習事項と結び付けながら、根拠をもって表現することができるようになったことが分かる。

表6 ルーブリック2「因果関係や共通性、差異性を根拠に基づいて表現する力(思考・判断・表現)」

	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(努力を要する)	D(改善を要する)
評価	31%	41%	25%	3%

表7 生徒の記述(抽出)

	第2時	本時(第5時)
生徒1	西園寺内閣が陸軍・海軍の要求を満たすために、国民の負担を増やしてまで増税し、陸軍との関係悪化で失敗したにも関わらず、桂太郎内閣も陸軍に影響されすぎていたため、憲法に基づく政治を求める人々が議会を包囲した。	これまでの資料や前回までのプリントより、米の消費量が大戦景気で増加したのに米価を含む物価がシベリア出兵への投機的買占めや、寄生地主が増加し農業生産が停滞したことによって上昇したが、それに賃金の上昇が追いつかず、都市労働者や下層市民の生活が困窮した。また、新聞が普及したり、多くのニュースが知れ渡るようになったり、学校に通う生徒が増えたりしたため、知識のある層が増加し、政治運動への関心が高まったため、政府に反発しやすくなったから。
生徒2	(記入なし)	大阪で工場が多く作られる工業的な発展をとげたり、養蚕業が発展したりなど大戦後の急激な経済発展により、工業労働者が増え都市に人口が集中した。米の消費量も増大し、米価が高騰。新聞の広がりによって全国的に情報が伝わる仕組みが整えられた。寄生地主制の進展やシベリア出兵によって商人による米の買い占めが行われ、一般の人々が米を手に入れづらくなってきた。学校に行く人が増え、識字率が上昇。新聞を読める人が増え、米騒動などの動きを知り、自ら行動を起こそうとする動きが始まった。

ウ 仮説3について、表8よりA・B評価の生徒は合わせて55%であった。C評価の生徒が36%在籍していることから、学びに向かう意欲や姿勢については、生徒間でばらつきがみられた。生徒も「時間がない」「もっと考えたい」と発言していたことから、授業内におけるグループでの話し合い活動の時間が十分でなく、グループ内での意見が深まらなかった班が多かったことが関係していると考えられる。

表8 ルーブリック3「学びに向かう力（主体的に学習に取り組む態度）」

	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	C（努力を要する）	D（改善を要する）
評価	20%	35%	36%	9%

検証授業(3) 地理B

教科名	地理歴史	科目名	地理B	学年	第1学年
-----	------	-----	-----	----	------

(1) 単元の目標

- ア 世界のエネルギーを取り上げ、それぞれの特色や分布、形成の要因などについて考察させ、基礎的・基本的な知識を習得することができる。
- イ 世界や日本のエネルギー問題を世界的視野に留意して概観させ、課題解決に向けて諸資料を基に考察し、文章にまとめることができる。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 エネルギー
- イ 使用教材 新編詳解地理B（二宮書店） 基本地図帳（二宮書店）

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
エネルギーの消費・分布・課題や現状について理解している。 調べた内容をワークシートにまとめている。	調べた内容を基にグラフ・表・ランキング形式でまとめるとともに既習事項を踏まえて自分の考えを記述・発表できる。	世界のエネルギーに関する関心をもち、史資料を読み取り考察に意欲的に取り組もうとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
	【単元を貫く問い】日本のエネルギーを安定させるにはどうしたらよいか。				
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から世界と日本のエネルギー消費の現状を読み取ったり、各発電所の分布を読み取ったりする。 	●			<ul style="list-style-type: none"> ・作成した白地図から日本の発電所の分布の特徴を読み取っている。(ワークシート)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題を踏まえ、班で原子力発電、火力発電、再生可能エネルギーの仕組み、メリット・デメリットをまとめ、費用、安全、環境、自給の4点の観点のランキングを作成する。 		●		<ul style="list-style-type: none"> ・各発電の仕組みや資料から読み取った内容を基に、メリット・デメリットを考察することができる。(ワークシート)
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の電力事情やアメリカの動向などに着目し、調べた内容をワークシートにまとめる。 		●		<ul style="list-style-type: none"> ・世界のエネルギーの動向について様々な立場の国の立場や歴史、環境を踏まえて理解することができる。(ワークシート)

第4時	【本時の問い】現在の日本はエネルギーにどのように取り組んでいるのか。				
	・日本のエネルギー事情、電力の自由化、企業と公衆の意識と行動などに着目し、調べた内容をワークシートにまとめる。		●		・日本の二次エネルギーの消費に関して、国、企業、大衆の観点から理解する。(ワークシート)
第5時	【本時の問い】今後の日本のエネルギー利用はどうなるだろうか。①				
	・既習事項を基に2050年のエネルギー源別の消費状況のグラフを作成し、なぜそのような構成になったか、また達成するためにどのような取り組みが必要か、これまでの資料を基に記述する。		●		・既習事項を基に2050年の日本の電力構成を根拠をもって考え、理由と合わせて表現することができる。(ワークシート)
第6時 (本時)	【本時の問い】今後の日本のエネルギー利用はどうなるだろうか。②				
	・各自が作成したグラフや記述について班内で発表し、それを基に班で改めてグラフの作成、必要な取組について検討する。		●		・自分の意見を記述し、話し合い活動で他者の意見を踏まえて自分の意見を根拠をもって説明しようとしている。(ワークシート)

(5) 本時 (全6時間中の6時間目)

ア 本時の目標

(ア) 既習事項を踏まえて日本の今後のエネルギー利用について自分の考えをもつことができる。

(イ) 日本のエネルギー利用について他者の考えを基に自分の考えを深めることができる。

イ 仮説に基づく本時のねらい

(ア) 日本のエネルギー利用の特色について、史資料を活用して整理し、まとめるワークシートを導入し、史資料の読み取りができているかを確認する。

(イ) 日本のエネルギー利用の問題点について、根拠に基づいて論述させるワークシートを導入し、自らの考えをまとめ、表現する力を身に付けることができているかを確認する。

(ウ) 単元全体を見通すことができるワークシートやアンケートを導入し、学びに向かう意欲の高まりや多面的・多角的に考察する力を身に付けることができているかを確認する。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 5分	【単元を貫く問い】日本のエネルギーを安定させるにはどうしたらよいか。		
	【本時の問い】今後の日本のエネルギー利用はどうなるだろうか。②		
	・「単元を貫く問い」と「本時の問い」の確認するとともにルーブリックを提示し評価について確認する。 ・グループワークと発表の方法を確認する。	・ワークシートだけでなく、拡大したルーブリックを黒板に掲示する。	

展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・班内で一人ずつ前回の授業でまとめた個人ワークを発表・共有する。 ・個人の発表内容を基に日本の2050年のグラフを班で作成する。 ・作成したグラフのポイントや、実現のための方策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時から第4時までの既習事項を基に考察するよう指導する。 ・多角的な視点から考察し、あらゆる立場・意見を尊重するよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項に加え、資料を基にして多面的・多角的に考察し、表現している。(ワークシート、活動観察)
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに模造紙を黒板に提示し、50秒で発表する。 ・課題に対する現在の自分の考えや疑問等をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入する内容は本単元で学習した語句や内容を反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を基に、今後の日本のエネルギー利用について表現している。(ワークシート)

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1については、表9からA・B評価の生徒が半数を超えていことから史資料を活用して整理する方策が妥当であったことが分かる。一方で、残り半数の生徒のフォローも同時に考える必要がある。

表9 ルーブリック1「多面的・多角的に史資料を読み取る力(知識・技能)」

	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(努力を要する)	D(改善を要する)
本時	18%	33%	30%	18%

イ 仮説2については、表10よりA・B評価の生徒は70%を超えていることから、根拠に基づいて論述させる方策が妥当であったことが分かる。

表10 ルーブリック2「因果関係や共通性、差異性を根拠に基づいて表現する力(思考・判断・表現)」

	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(努力を要する)	D(改善を要する)
評価	39%	31%	28%	3%

ウ 仮説3について、表11よりA・B評価の生徒は合わせて79%であった。ルーブリックを事前提示し、きめ細かな評価を導入したり、単元を貫くワークシートを活用して全体を見通せる学習活動を導入したりすることで、生徒の学びに向かう意欲の向上につながったと考えられる。

表11 ルーブリック3「学びに向かう力(主体的に学習に取り組む態度)」

	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(努力を要する)	D(改善を要する)
評価	33%	46%	15%	2%

検証授業(4) 江戸から東京へ

教科名	地理歴史	科目名	江戸から東京へ	学年	第2学年
-----	------	-----	---------	----	------

(1) 単元の目標

- ア 第一次世界大戦期に関する史資料を活用し、国民生活の変化について理解することができる。
- イ 第一次世界大戦による日本国内の社会・経済の変化について、それぞれの関連性や因果関係について、考察し、文章にまとめることができる。

ウ 史資料の活用を通じたグループ活動やルーブリックの事前提示を通じて、意欲的に学習に取り組むことができる。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

ア 単元名 第一次世界大戦と日本の経済・社会

イ 使用教材 東京都教育委員会「江戸から東京へ」

帝国書院「図説 日本史通覧」 山川出版社「史料による日本史」

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
第一次世界大戦によって日本の経済、社会に起きた変化について基本的な事項を理解している。	第一次世界大戦の影響の下で日本の資本主義が発展し、社会構造が変化したことを多面的・多角的に捉え、表現している。	第一次世界大戦の影響で日本の経済、社会に変化がもたらされたことに興味をもち、史資料の読み取り、考察に意欲的に取り組んでいる。

(4) 単元の指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
					【単元を貫く問い】第一次世界大戦を通じて日本の経済、社会にはどのような変化が起きたか。
第1時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後に進展する東京の都市化について、学校所在地である「渋谷区」に着目して、当時の渋谷の特徴について、史資料を読み取り根拠をもってまとめる。 		●		<ul style="list-style-type: none"> ・明治から大正時代の渋谷区の特徴について、様々な史資料を読み、その変化について考察し文章にまとめている。(ワークシート)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後の大戦景気が与えた国内への影響・変化について、史資料を読み取り根拠をもってまとめる。 		●		<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後の社会・経済・国民生活の変化について、史資料を読み、その変化について考察し文章にまとめている。(ワークシート)
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・大正時代の文化の特徴である、市民文化の成長や都市化について、理解する。 	●			<ul style="list-style-type: none"> ・大正時代の文化に関して、市民文化の成長や都市化等を理解し、その知識を身に付けている。(ワークシート)

(5) 本時（全3時間中の1時間目）

ア 本時の目標

第一次世界大戦より進展した大戦景気に関して、「渋谷区」の都市の変化に着目して、史資料を多面的・多角的に読み取り、考察し、根拠をもって説明する。

イ 仮説に基づく本時のねらい

(ア) 明治から大正にかけての渋谷の変遷について、史資料を活用して整理し、まとめるワー

クシートを導入し、史資料の読み取りができているかを確認する。

(イ) 渋谷が発展した要因について、根拠に基づいて論述させるワークシートを導入し、自らの考えをまとめ、表現する力を身に付けることができているかを確認する。

(ウ) 単元全体を見通すことができるワークシートやアンケートを導入し、学びに向かう意欲の高まりや多面的・多角的に考察する力を身に付けることができているかを確認する。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 10分	【単元を貫く問い】第一次世界大戦を通じて日本の経済、社会にはどのような変化が起きたか。		
	【本時の問い】明治から大正にかけて、なぜ渋谷は発達したのか。		
展開 35分	・「今の渋谷」について連想できることを答えるとともに、明治末期の学校周辺地図を読み取る。	・本時の目標と評価基準を提示するとともに、グループ分けと個人の役割を確認する。	・既習事項に加え、資料を基にして多面的・多角的に考察し、表現している。(ワークシート、活動観察)
	・明治から大正までの渋谷区に関する複数の史資料を読み取り、根拠をもってまとめる。 ・個人のまとめをした後で、グループ内で情報を共有して、説明する。 ・グループでのまとめを発表する。	・史料の読み取りやまとめるに当たっては、どの資料を根拠に説明しているかを明記させる。	
まとめ 5分	・グループでまとめた内容を踏まえて、ワークシートに記入する。	・話し合った内容を基に、どの資料を利用したかを踏まえながら、まとめるように指示する。	・資料を基に、渋谷の発達の要因について表現している。(ワークシート)

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1については、表12よりA・B評価合わせて84%であり、史資料を活用して整理する方が妥当であったことが分かる。史資料の読み取りについては、前単元から毎時間少しずつ取り入れ、多面的・多角的に読み取ることができたことが分かる。

表12 ルーブリック1「多面的・多角的に史資料を読み取る力(知識・技能)」

	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(努力を要する)	D(改善を要する)
評価	24%	60%	16%	0%

イ 仮説2については、表13よりA・B評価の生徒が88%であり、根拠に基づいて論述させる方が妥当であったことが分かる。

表13 ルーブリック2「因果関係や共通性、差異性を根拠に基づいて表現する力(思考・判断・表現)」

	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(努力を要する)	D(改善を要する)
評価	7%	81%	12%	0%

ウ 仮説3について、表14よりA・B評価の生徒は合わせて70%であった。ルーブリックを事前提示しきめ細かな評価を導入したり、単元を貫くワークシートを活用した学習活動を導入したりすることで、学びに向かう意欲の向上につながったと考えられる。

表 14 ルーブリック 3 「学びに向かう力（主体的に学習に取り組む態度）」

	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	C（努力を要する）	D（改善を要する）
評価	38%	32%	24%	5%

VI 研究の成果

本研究では、「1 複数の史資料を読み取り、読み取った内容を整理し、まとめること」、「2 新たな学習内容と既習事項を結び付け、社会的事象の特徴を表現すること」、「3 提示された課題に対する考え方や主体的な学びに向かう意欲を見取る学習評価を導入すること」の三つの研究の視点に基づいて4科目の検証授業を実施した。

全ての検証授業及び学習評価の結果から、複数の史資料を読み取り、整理し、まとめるワークシートを授業の中で繰り返し活用することは、史資料の読み方や多面的・多角的に史資料を読み取る能力を高める上で有効であることが分かった。

また、課題に対して、生徒が既習事項を活用しながら、因果関係や共通性、差異性を表現したり、根拠に基づいて論述したりするワークシートを授業の中で活用することは、多面的・多角的に史資料を読み取る力を育成する上で有効であることが分かった。

さらに、ルーブリックを事前に提示してきめ細かな評価を導入したり、単元を貫くワークシートを活用して全体を見通せる学習活動を導入したりすることは生徒の学びに向かう意欲を高める上で有効であることが分かった。

以上のことから、本研究の視点に基づいた取組は、研究主題である「社会的事象について史資料を活用して多面的・多角的に考察し、根拠をもって表現する力を育むための授業改善と学習評価の充実」を図る上で有効であると考えられる。

VII 今後の課題

本研究では、次のとおり課題が見られた。

全ての検証授業及び学習評価の結果から、一定数内在する評価C・Dの生徒への対応が求められる。そのために、ワークシートの形式について、使用すべき語句を指定したり、穴埋め形式したりするなど、生徒の実態に応じて工夫する必要がある。

また、生徒の使用する史資料については授業準備の段階で授業担当者が探し出したり、所有している独自のアーカイブの中から精選したりして提示することができたが、膨大な時間と相当の労力を要した。この点については、生徒のワークシート等を評価する時間やフィードバックするための時間を確保することができるよう効率的な方法について検討する必要がある。

さらに、ワークシートやアンケートなどの成果物により学習評価を付けることはできたが、話し合い活動における生徒の主体性や協働性を見取るパフォーマンス評価については十分に実施できなかった。「地理歴史＝暗記科目」という根強く生徒に浸透している図式から脱却するべく、生徒の主体的な学びに向かう意欲を高めるための手法を研究し続ける必要がある。

平成 31 年度 (2019 年度) 教育研究員名簿

高等学校・地理歴史

学 校 名	職 名	氏 名
東京都立葛飾野高等学校	教 諭	須 藤 剛
東京都立広尾高等学校	教 諭	吉 武 康 平
東京都立科学技術高等学校	教 諭	大 木 健
東京都立千歳丘高等学校	教 諭	中 村 里津也
東京都立石神井高等学校	主任教諭	中 村 修
東京都立田柄高等学校	教 諭	細 川 貴 之
東京都立立川高等学校	教 諭	◎井 上 裕 介
千代田区立九段中等教育学校	主任教諭	須 郷 一 史

◎ 世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
指導主事 南濱 隆宏

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
高等学校・地理歴史

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849